科目名	健康回復を支える看護Ⅰ	対象学年・時期	１年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	１単位・１５時間
講義概要	ディプロマポリシー３に基づく。病気を診る演習では病態学で学んだ知識を基に、病気がもたらす身体機能の変化が生活にどのように影響するかを学んだ。 　この科目では、解剖生理学と病態学、病気を診る演習の知識を土台に、患者の症状から訴えから情報を得て気づき、判断して、行動する力を養うシミュレーションの学習を行う。知識を記憶する学習にとどまらず、知識を使って行動し、対象の健康回復と生活の自立への看護を想像する力を身につけることがねらいである。 　シミュレーション学習は、実際の状況の再現性が高く、現実的な実践さながらに思考し、気づき、判断し、行動することを体験的に学ぶことができる。一連の思考過程や体験は、振り返り再現して課題に気づくことができる。技術やケアのような反復学習ではなく、能動的に創造的に行動することが求められる。		
講義形態	演習、グループワーク		
学習目標	１．フィジカルアセスメントの知識を活用して全身状態を観察し、場面の事例の目標に沿った計画を立てる。 ２．病気の経過別に起こる症状や反応に気づき、何が起こっているのか判断して行動する。 ３．事例ごとのリフレクションを通して、気づき、判断、行動の全体を通して、自己の課題を見出す。		
学習内容 (授業計画)	１回目（４５分）　ガイダンス ２回目　シミュレーション演習：感覚機能変化のある対象の観察と対処（老化） 事前学習：難聴、前立腺肥大の病態、観察、看護 ３回目　シミュレーション演習：咳・痰のある対象の観察と対処（肺炎） 事前学習：肺炎、咳、痰の病態、観察、看護 ４回目　シミュレーション演習：腹痛のある対象の観察と対処（弛緩性便秘） 事前学習：便秘の病態、観察、看護 ５回目　シミュレーション演習：浮腫のある対象の観察と対処（心不全） 事前学習：心不全の病態、浮腫の病態、観察、看護 ６回目　シミュレーション演習：下痢のある対象の観察と対処（感染症） 事前学習：ノロウイルス感染症、下痢の病態、観察、看護 ７回目　シミュレーション演習：麻痺のある対象の観察と対処（脳出血） 事前学習：脳出血の病態、観察、看護 ８回目　シミュレーション演習：かゆみのある対象の観察と対処（閉塞性黄疸） 事前学習：膵頭部癌、閉塞性黄疸の病態、観察、看護		
使用テキスト	系統看護学講座成人看護学「呼吸器」「循環器」「消化器」「脳・神経」「腎・泌尿器」 「アレルギー　膠原病　感染症」医学書院 ナーシング・グラフィカ「老年看護学②高齢者看護の実践」メディカ出版 「看護過程に沿った対症看護病態生理と看護のポイント」Gakken		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	内容については「学習内容」を参考にしてください。 各講義とも事前学習（９０分）演習後のデブリーフィングおよびリフレクションの自己学習時間（９０分）を本講義の学習要件とします。なおこの時間（分）は最低限の時間とし、個人の要件により超過することもあります。		
評価基準と 評価方法	２回目～８回目の演習での実施内容、リフレクションをルーブリックで評価する（各回１２点満点） 課題の提出状況（１６点）		
備考	演習は実習室で行います。限られた時間での演習となるため、事前課題に十分とりくんで下さい。		